

目的 本研究は高等学校家庭科において生活時間設計を授業することの意味を明らかにし、そのための教材開発を目的としている。生活時間配分についての授業はあっても生活時間設計の授業は少ない。本報告では、生活時間設計についての実験的授業実践の結果に基づいて、生活時間設計を家庭経営学の視点から分析した。

方法 広島大学附属福山高等学校の1年生3クラス（男子68名、女子49名、計117名）を対象とし、生活時間設計の授業を4時間実施した（2000年5月）。自分と家族二人までの生活時間を記録させ、日々の生活を反省させたあと、次週のある一日を自分の理想を入れて計画、実行させ、反省・自己評価させた。授業終了後にアンケートをとった。

結果 (1) 計画にあたって生徒が設定した目標は勉強(24.8%)、バランスよく充実した一日(13.7%)などが多く、複数の目標を設定した生徒も17.1%いた。この目標が達成できた生徒は60.5%、達成できなかった生徒は29.6%であった。

(2) 実際の活動が計画より長くなった例としては睡眠時間、自由時間があり、計画より短くなった例としては勉強時間、家事労働などがあつた。計画と実際とのずれとしては時間量のほかに時刻の違いがあり、入浴は時刻がずれることの多い活動であつた。事例として、天候のために計画していた余暇活動がまったく不可能になったものがあつた。

(3) 計画どおり実行できた生徒は48.2%、実行できなかった生徒は30.7%であつた。総合的にみて充実した一日になったと思う生徒は63.2%、そう思わない生徒は24.6%であつた。計画どおり実行できた生徒のほうが充実した一日になったと思う傾向が強かつた。